DOYU IWATE
8 Aug.
2021 Vol.151
同友いわて

特集“共に学び共に育つ”原点を考える
～自分の力で立って、自分の人生を歩むために～

よい会社をつくろう。よい経営者になろう。よい経営環境をつくろう。

岩手県中小企業家同友会｜http://www.iwate.doyu.jp/｜

特集

“共に学び共に育つ” 原点を考える
～自分の力で立って、自分の人生を歩むために～

【テーマ】「女性のエンパワーメントで企業、地域の未来を展望する」
～クレセントシティ市を訪れて私たちが考えたこと～

〈コーディネーター〉 Support office N 代表 鈴木 典子 氏

〈パネラー〉
㈱山十 店長 伊東亜希子 氏
㈱東海新報社 代表取締役 鈴木 英里 氏
村上製材所 村上 優 氏

鈴木典子氏

2021気仙支部総会・6月例会が6月11日、陸前高田コミュニティホールで開催されました。例会では昨年から準備し、コロナ禍の中で延期になっていた4人の特別報告を行いました。報告内容を特集でご紹介します。

（鈴木典子） 陸前高田市と、カリフォルニア州デルノーテ郡にあるクレセントシティ市は、東日本大震災発生から2年後の2013年、津波で流された県立高田高校の実習船「かもめ」が同市に漂着したことをきっかけとして両市の高校生同士の交流が始まり、姉妹都市関係となりました。

2019年12月7日～13日には陸前高田から35名が参加し訪問団として同市を訪問。今回登壇いただく4人は、女性の活躍や男女共同参画に関心を持つ有志の市民として「女性のエンパワーメント」に関して、現地の行政職員や議員、経営者とのセッションに臨みました。

はじめに今回の視察で率直に感じたことをお二人からお話いただきます。

現地を訪れて近く感じた想い

（村上優） クレセントシティ市の風景は、陸前高田と本当に似ています。漁港があり、松林があり、訪れて懐かしい気持ちがする場所です。人口は7千6百人と小さな都市ですが、雰囲気や産業構造が気仙ととても似ています。1947年以降津波被害が20回近くもあり、東日本大震災でも一人の方が亡くなっています。

サンフランシスコから3時間以上もかかり、外国人観光客が訪れることがほとんどなく、この点でも非常に似た課題があります。

私にとって印象的なのがレッドウッドというシンボルツリーです。高さは世界最長といわれ、100メートル以上もあります。下から見上げても先が見えないほどです。日本の赤松とは違い、スギ科の木です。とても柔らかく加工をしやすい材料だと聞きました。

当社は製材業ですので、陸前高田と比較しながら興味深く参加しました。

村上　優氏

（伊東亜希子） 日本とは時差が16時間ほどあり、現地到着まで2日以上かかる長旅でしたが、到着からすぐ3日間、9時から17時まで講演、ワークショップ、グループディスカッション、経済学の研修などが続きました。

基調講演ではまず、ネイティブアメリカン（先住部族）の総合弁護士を担っておられる方からお話をお聞きしました。クレセントシティには二つの先住部族が存在しますが、後に触れますが、以前は大変な差別があったと聞きました。そうした問題や女性の貧困、女性が外で働くことの必要性、なぜ女性の活躍が大切なのかなど問題提起をいただき、参加者全員で意見交換会を行いました。また経済学の研修など各分野で女性リーダーとして活躍されている方の話や行政、経営者、医療関係者など様々な方々の話を聞きました。

一番印象に残っているのは、クレセントシティでも中心市街地を女性の力で元気にしていこうという、ダウンタウンディーバーというまちづくりグループで、「街をワクワクする場所にしたい」という想いが、私たちと全く同じで、非常に近く感じました。

（鈴木典子） 視察では机を置かずにお互いを尊重しながら話せる場をつくるなど、丁寧に雰囲気づくりをしてくださいました。アメリカは主張が多いと思っていましたが、想像とは逆で、よく話を聞いてくれる人たちでした。

「あなたの夫は、子育ての時に育児休暇をとりましたか」と聞かれ、「いやいやそんなこと当時はできなかった」と話すと、「それはどういう背景があったか、どういう慣習なのか」など、詳しく関心を持って質問されました。「クレセントシティでも以前はこういう

状況だったが、それを変えるために私たちはこんな風にして活動をしてきた」など、具体的に話をしてくれました。

それでは次に、「女性のエンパワーメント」について、どんな学びをしてきたのか、鈴木さんにお話しいただきます。鈴木さんは今回の体験を、東海新報で「海の向こうの私たちのまち」という連載を42回もしてくださいました。

出会いは偶然ではなく宿命

（鈴木英里）高田高校の「カモメ」の漂着から始まった関係ですが、一番のラブコールは市や郡の関係者の方々からでした。「私たちのまちを選んで来てくれた。これは偶然ではなく宿命なんだ」、ということを強くお話され、市民レベルまで巻き込もうと、向こうからわざわざ高田においでになり、何度も何度も「仲良くしよう」と議会に働きかけてくれたのです。

伊東亜希子氏

鈴木英里氏

アメリカから日本においでになったときも、私たちは単におもてなしをすればいいと思っていたのですが、繰り返し「高田の産業関係者に会いたい」と話すわけです。「私たちはもっと発展性のある話をしたい。お互いに学んで、経済的にも相互に発展していきたいんだ。その可能性を探りたいから、生産者や企業家と会いたい」と言われました。それくらい本気で交流を進める意欲を感じました。

傷ついても、もとに戻ることができる力

（鈴木英里）今回の視察は「女性のエンパワーメントを学ぶ」という目的でしたが、実際に現地に行ってみて、クレセントがなぜエンパワーメントを学んで欲しかったのかがわかりました。

これは大震災で傷ついた高田の人たちが復興していく上でも、地方創生をしていく上でも「女性のエンパワーメントなしでは復興も地方創生もあり得ないんだ」ということなんです。現地の行政や大学関係者、経営者、ネイティブアメリカンの方々から話を聞いてそれがよくわかりました。

女性の活躍ができる場所があるということが、男性にとっても、そして地域にとっても非常に重要です。視察ではレジリエンスということが何度も何度も出されました。SDGsの中でもよく言われる言葉ですが、日本語に訳すと「傷ついても、もとに戻ることができる力」という意味がある言葉です。私たちは大震災で大きく傷ついてしまったのですが、ここから立ち上がるためには何が必要か。それは、男性も女性も等しく活躍できる地域。それがレジリエンスにある意味だと思いました。

女性のエンパワーメントがなぜ大事なのか

そもそも、女性のエンパワーメントというと女性活躍の推進というような言葉に言い換えられるわけですが、そうした言葉があるということは、現実に活躍ができていない状況があるという前提の言葉だと思います。

レクチャーでは、女性が家に縛られるような状況を変えることができれば、単純にGDPがあがるという話がありました。反対にジェンダーギャップが埋められなければ、社会にとって非常に大きな人的資源の損失になる。世界的には2〜3兆円の資産が失われるほど、と聞きました。

また女性が外で働く機会があることが、SDGsのゴールの一番目にある「貧困を断ち切る」ために大切なことであることも聞きました。女性の方が男性よりも遥かに貧困に陥りやすいし、その結果子どもたちが教育を受けられず貧困の連鎖が起きてしまうことになります。負の連鎖が起きやすくなってしまいます。だからこそ、誰でも子どもを育てながら働くことができる社会的仕組みが必要です。国も地方自治体としても取り組む必要があるのです。

クレセントシティで保険福祉部長をされているヘザー・スノウさんは、母子家庭で育ちました。その日食べるのも困るほどの貧困のなかでも、周囲の支えで大学を卒業、高等教育を受けられる環境を作ってもらいました。そして、「自分のお世話になった福祉行政の力になりたいと現在の道を選んだ」と聞きました。「かつて私が救われたように、地域の女性を救っていきたい」と話されていました。まさに負ではなく、正の連鎖です。

「あのとき、あんな風にしてもらった」という記憶

（鈴木英里）女性たちの力で市街地を活性化していこうというグループもありました。商店街が衰退していく中で、横の繋がりを増やしていくことで、活性化につなげていこうという取り組みです。ダウンタウンディーバーという全員が女性のグループでは、「自分たちの日常使うものは、地域で購入する」というバイローカル運動や、地域イベント、地域の女性が自由にドレスを使うことができるブティックの運営などを行っています。

　このブティックは、すべて寄付によって集まったドレスで運用されていますが、その理由はアメリカならではの文化が背景にあります。高校生が卒業式にダンスパーティをするなど、日常的にドレスを着用する習慣がありますが、貧しい家庭の女性は「お金がなくて買えないから参加しない」ということになってしまいます。「そんな惨めな思いをさせたくない」、という思いでこのグループは運営しています。ドレスに必要なバックも靴も無償提供です。

　そして選ぶ楽しみが女性にはあります。自分で主体的に選べる喜び。これが自分を愛することができるきっかけになり、それが地域を愛することにつながります。

　「あのときに町の人たちにあんな風にしてもらった。これがまた地域愛を醸成することになる。そうなれば誰かのためにしてあげたい、とまた思うようになる。そうした正の連鎖をつくりたいからやっているんだ」という話を聞きました。こうしたことをティーンエイジャーたちが経験をすることで、将来の女性活躍につながっていくのです。

私がやってもいいんだ

（村上優）私の従事する製材業、林業は男性が多く「今までこうやってきたんだから」という固定概念が多く狭い視野にとらわれがちです。

　私自身も結婚を機にこの業界に携わっているので、無知な状態でした。「尺って何？」という状態ですので、注文の電話がくるのが嫌で嫌でしょうがありませんでした。今までは事務、経理ですので補助的な役割がメインでしたが、今回の視察でパワフルな女性経営者の話を聞けば聞くほど、「私がやってもいいんだ、提案してもいいんだ」という気持ちの変化が大きく、とても自信を与えてもらえました。積極的に参画していくことが大事なのだと思います。

　私には子どもが二人いるので、育児で仕事に関わる時間が限られていますが、自営業ということもあり、私が仕事をすることに家族が非常に協力的だということが大きいです。これが自分の強みだと思うので積極的に経営にも参画していきたいと思います。

（伊東亜希子）私の印象的な言葉は、中心市街地の活性化の場面の話で「男性だから女性だからではなく、しようと思った人が声を出してみんなを巻き込んでいけばやればいい」という話を聞いてとても納得できました。コロナ前に陸前高田の中心市街地で盆踊りを企画したのですが、あんなに老若男女問わず喜んでもらえるとは思っていませんでした。ここでも自分が背中を押してもらったように感じました。

（鈴木英里）クレセントシティは男女平等とか、女性活躍は先進地域だと思っていました。しかし本音を聞いていくと、実はまだまだ日本と同様に、偏見や家事は女性がという性別の役割への印象がまだまだ強いと聞きました。

　しかしこの間、育児休業を男性が取りやすくなったり、地域のイベントへに女性が参加する場合、子どもを預かる仕組みなどのサポート体制が構築されていたり、本当に長い時間をかけて価値観をシフトしていくような取り組みが重ねられてきたことも同時にわかりました。

　「今の40代以下の若い方々の意識は圧倒的に変わっている。でもこれも最初に誰かが声をあげたからこそ、状況を変えることができたんだ。そしてそれを実現しようとした人たちがいたからできた。だからあなたたちも、社会を変える最初の一人になってね。声をあげれば必ずそれに賛同して協力してくれる人があるから」と言われて来ました。大きな後押しをいただいたように感じました。

多様性と共生社会について知る

（鈴木英里）カリフォルニア

は、もともとネイティブアメリカンが多いところに白人が入ってきた地域です。私が一番衝撃を受けたのが、ネイティブアメリカンの方の話でした。

そこでの話は私たち三陸に生きる人たちとの共通の部分が沢山ありました。

「私たちは川のたもとで生きてきた部族です。沢山の恩恵も受けてきました。しかし川は時に氾濫します。多くの被害をもたらし、取り返しのつかない被害、事態も招きます。しかし川の恵みをいただき生かされているという気持ちと、川と共にあろうとする歴史に誇りを持って生きてきています。」

それは私たち気仙の人たちが海に持っている感覚と同じだと思いました。時として牙をむくこともありますが、私たちはここで生きているんだ、という誇り。まったく同じだと思いました。

「私たちは大いなる水の子どもたちである」という話も聞きました。「あなたたちも同じだよね、だから私たちはわかり合える。」といわれました。「自然によって傷つくことも知っているけれども、大いなる水の町への感謝もある。ここでどうやって共に生きていくか」と話していました。

傷ついても立ち直れる地域

（鈴木英里）このまちが危機に陥ったのは自然災害ではありませんでした。先住民の方々への、言葉ではとても言い表すことのできない大変な差別の歴史がありました。土地を奪われ、同化政策（インディアンではなくアメリカ人として生きる）で部族の言葉を奪われ、暮らしてきた時代がとても長くありました。

そこで女性は家事を覚えさせられ、男は農作業や大工仕事というように男女の役割があることを植え付けられていきました。ネイティブアメリカンは旧来、男女別にそれぞれリーダーがあり、それぞれの役割はあります。「男も女も同等の価値があるんだ」という考え方があった。しかしそうして文化が奪われてしまい、部族がすさんでしまった時代があったといいます。いまもそうしたトラウマを抱えている人たちもいるそうです。

そんななかでどのように、こうしたレジリエンスの価値観を取り戻したか。時間をかけて、男女が等しく価値がある。女性には女性の役割があり価値があるんだ、という旧来の価値観を必死で取りもどしてきた。傷ついても立ち直れる地域を構築し、コミュニティを取り戻してきたといいます。

自然のバランスを保つ努力をするのと同じように、男女の均衡がとれた社会を保つことで、個々が役割を担うことで災害に見舞われても、認め合って個々が役割を担うことで災害に見舞われても、更に強い世界を取り戻すことが出来るんだということが印象深く感じました。

自分の力で立って、自分の人生を歩むために

（鈴木英里）多様性を認め合うということには、男女だけではなく障がいがある人もいれば、違う民族の方もいるわけです。また移民も多く、マイノリティが多い地域でもあるわけです。だからこそ、高校までの間に国語としての英語の他に、かつて奪われてしまった少数民族の言葉も一通り学ぶ時間をつくっています。スペイン語もベトナム語も同様に学びます。少しでも誤解のないように理解し合えるような場を作っています。相手のことを理解しようとする土壌を作ることを徹底して学校教育でも行っています。

弱い立場にある人たちが、自分の力で立って自分の人生をおくれる町。これが陸前高田でめざしているノーマライゼーションという言葉のいらない街の背景になるのだと思います。こうしたことを陸前高田も姉妹都市であるクレセントシティに学ぶことが大切であると感じました。

（鈴木典子）「世の中はこういうもんだ」という固定概念が、それぞれの可能性を制限してしまっているのではないかと思います。陸前高田で考えると、一部の女性の方々は活躍していますが、「表に出ていない方々はどうしていらっしゃるのか」と思います。もっともっと日常のなかで、一人ひとりの顔や言葉が見えていいのだと思います。そのために組織の中で声が出せない人たちの声に耳を傾け、「私はこれをやってみたいんです」ということを引き出すことができたら、と思うのです。小さな声でも「それをやってみたら」と応援することで、女性だけではない、それぞれの能力を発揮するきっかけになるのではないかと思います。

これからはますます男性も女性もそれぞれを尊重しながら、それぞれの持っている目に見えない力を引き出していくことが必要になります。そうした積み上げが陸前高田、気仙、岩手、東北の未来が明るいものになっていく大きな鍵になるのではないかと思います。

コロナ禍の中で大きく花開いた「新生」経営指針実践塾
～第15期人を生かす経営・経営指針実践塾～

3月からの4ヶ月にわたり、第15期人を生かす経営・経営指針実践塾が開催されました。これまでの14期、経営指針を創る会から継続してきた開催方法を大きく見直し、コロナ禍の中でもオンラインを生かして深める方法はないかを模索、一年間検討を重ねて開催にこぎ着けました。

第15期実践塾修了生

当初は昨年3月に開講予定でした。しかし感染拡大が急激に広がるなかで、それぞれが対応に追われ、希望していた受講生にもご了解いただき、実践塾の進め方やスケジュール、内容についても一から見直しました。

5つの小グループでオンライン補講

大きく変わったのは、「受講生も、かかわり合う実行委員も共に学び合う同士として成長し合う」ことを一番の目的としたことです。これまでも同様に掲げてきましたが、どうしても経営指針を既に成文化し、社員と長年取り組んで来た実践者の言葉にどうしても偏った反応になったり、ベテラン経営者の方の言葉に大きく頼ったりと、自主・民主・連帯の精神を掲げながらも、実行委員の経験に頼ることが多くありました。また6ヶ月の長期にわたり経営理念を中心に深めることで、具体的な経営戦略や経営計画に描く前にセミナーが終了してしまう傾向にありました。

そこで今回から、5つのグループに分かれ、それぞれが受講生を2名ほど受け持ち、最後まで小グループで責任を持ってかかわっていく方式に変更しました。またそのグループ長は30代～40代前半の若手後継者が担い、オンラインに抵抗のない世代が中心になって実践塾の運営をしていくことになりました。

毎週オンラインで補講を開催するグループもあり、全体で約40回を超える〝自主トレ〟補講が行われたことでそれぞれの人間関係も深まったことは、これまでにない大きな成果でした。

役が人を育てる

今期から新しく経営労働委員長として先導する川村武司氏(杜陵テクノ㈱代表取締役)は、昨年まで岩手同友会の初代青年部会長として、組織を牽引してきました。川村氏のモットーは「役が人を育てる」という考え方です。ご自身もまったく後継者として自信がなかった時期がありました。そこから皆さんに部会長として選任され、40人の青年部組織を背負い全国の青年部連絡会に参加する中で、社員が生き生きと主体になって活躍する企業や、組織経営を取り入れ大きく成長した企業など、実際に同世代、同じ立場で一緒に学び合う仲間と触れて、自分が学び成長できた実感がありました。今回はそうした経験を、コロナ禍の中だからこそ実現できたオンラインの利点も生かし、固定概念を取り払って挑戦した試みでした。

経営指針は成文化してからが本番

何よりも大きかったのは、関わった若いグループ長の皆さん、一緒に取り組んだ実行委員の成長でした。そして10社11名の受講生全員が、誰一人脱落することなく、6月の発表を迎えたことでした。

「こんなに自分の頭で考えたことはこれまでの人生でなかった」という受講生の言葉に、「いやいやこれからの実践の積み上げの方が、遥かに大変だよ。これからが本番」と声がかかるその雰囲気にも、岩手同友会の実践塾の新たな風を感じた時間となりました。

2021 支部・部会総会・例会

盛岡支部6月例会

大切なのはやりたいと思える環境づくり

2021盛岡支部総会・6月例会が6月15日(火)カガヤ肴町ビル会議室を会場にハイブリットで行われました。今年度の総会では、新たな役員も加わり「人を幸福にする行動を起こそう」をスローガンに、1年間取り組んで行くことになりました。総会終了後は、盛岡支部6月例会がオンラインと対面をあわせて38名の参加者で開催されました。

㈱濃飛葬祭　鈴木哲馬氏

社員の自主性が発揮できる企業になるために

例会では9月に青年経営者全国交流会開催を予定している岐阜同友会から、㈱濃飛葬祭　代表取締役　鈴木哲馬氏（岐阜同友会　代表理事）を迎え、「人はどんな時に伸びるのか？」～社員との関係性の質を高める事が社長の命題～をテーマにご報告いただきました。

㈱濃飛葬祭は、創業者である父親の代から同友会で学び、経営に生かして来ました。2001年、現社長の鈴木氏が二代目として事業を継承し、会社も順調に発展し社員も増えてきました。

しかし、当時は即戦力として中途採用だけをしていたため「人に教える」「人を認める」という社内の空気が薄いことに気づきます。それまでは、人には頼らず、自分でなんとかするという思いでやってきた鈴木氏ですが、「会社は働いている人たちがつくっている。『やりたい』と思える環境づくりが重要」だということにたどり着きます。そしてその実現のためには、社員を信頼する覚悟を持つこと。更に信頼したことに自信をもつことの大切さをご報告いただきました。

今回の例会では「会社での取り組みがなかなか上手くいかない、それは何故か？」と悩む経営者が多い中、①諦めず実践していくこと、②社員一人ひとりと向き合い、社員の成長をサポートする環境を社内に確立すること、③社員との関係性の質を向上させることで会社は必ず良くなる、など沢山のヒントやキーワードをいただいた例会となりました。

（文　㈱仙北造園　佐藤康之）

2021年度　盛岡支部　方針及び役員

《スローガン》「人を幸福にする行動をおこそう」

《活 動 方 針》
1. 会員相互の経営を研磨しながら会の活動を行います。
2. 人を生かす経営の確立を学び、同友会型企業の会員や仲間を増やします。
3. 本音で謙虚に語り合える会を目指します。
4. 会の存在意義を深め、会外への発信を積極的に行います。
5. 会での学びを会社で実行します。

《支 部 幹 事》

	会社名	役職	氏名
支部長	㈱仙北造園	代表取締役	佐藤　康之
副支部長	㈲くらし建築工房	代表取締役	中村　喜一
副支部長	㈱幸呼来 Japan	代表取締役	石頭　悦
幹事長	㈱エムデイワン　まごころみるく	代表取締役	下村　善勝
幹事	岩手日化サービス㈱	代表取締役	吉田　巧
幹事	㈱杜陵工業	代表取締役	瓜谷　昌子
幹事	こうや呉服店	代表	高屋　一成
幹事	㈲昆石材店		昆　卓広
幹事	㈲装美	代表取締役	阿部　優樹
幹事	㈱ソニックジャパン	副支社長	吉田　長美
幹事	東日本機電開発㈱	代表取締役	水戸谷　剛
幹事	丸乃タイル㈱	代表取締役	内舘　茂
幹事	㈲ミウラ燃機	代表取締役	三浦　巖
幹事	ミルクグラスクローゼット	代表	山内まどか
幹事	㈲ライフアシスタンスカンパニー	代表取締役	千葉　英男
幹事	㈱和かな	代表取締役	坂下　大輔

紫波花巻支部6月例会

BCPへの取り組みは、社員と共に育ちあう企業づくりそのもの

6月9日(水)2021紫波花巻支部総会・6月例会がオンラインで開催されました。

総会では、今年度の紫波花巻支部のスローガン「この難局を各社と連携して乗り越え、社員と共に明るい未来を切り開こう!」と4つの方針、そして今年度支部を牽引いただく幹事12名を提案し、全員一致で承認されました。

その後、6月例会が「BCP(事業継続計画)は経営実践そのもの」~危機管理は常に!~をテーマに、㈱東北ウエノ 代表取締役 鈴木雅彦氏より報告されました。

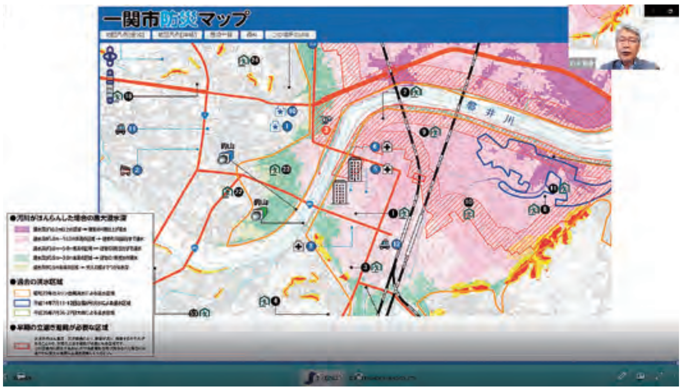
常に危機を想定した準備

鈴木氏は2002年にISO9001・14001を取得し防災対策を想定準備し、訓練も行っていました。しかし2008年の震度6強の地震、2011年の東日本大震災で社屋に大きな被害を受けました。その経験から従業員の安全確保や施設などの被害の予防対策を行うだけでなく、中核業務の継続・早期復旧が必要であることを痛感します。そのため自社内部の対策にとどまらず、サプライチェーンを考慮した対策と、これまでの危機を全社一丸で乗り切るために事業継続力強化計画を経済産業省から認定を受けました。昨年のコロナ発生から感染予防対策として「プリベンションパネル」や「ディスポスプラッシュシールド」の商品などは新しい事業を生み出す力となりました。

何を大切にし、どんな役割を果たすか

さらに、副次的な効果として経営者と社員の相互理解が深まり、何を大切にし、どんな役割を果たさなければならないかという事が深く共有されました。今回の報告から経営指針とBCPを社員と成文化すること、そして、本来のBCPは防災のための計画ではなく「社員と共に育ちあう企業づくりそのものである」ことを感じました。コロナ禍の中で大きく前進された鈴木社長の経営実践をお聞きし、紫波花巻支部の今年のスローガンと4つの方針の実現、そして支部45名の達成を確認した例会となりました。

(文:紫波花巻支部 川村武司)



2021年度 紫波花巻支部 方針及び役員

《スローガン》「この難局を各社連携して乗り越え、社員と共に明るい未来を切り開こう!」

《活動方針》
1. 各社の経営の取組み・課題を出し合う報告から、自分づくりのために自主的な例会を目指します。
2. コロナ禍に柔軟な発想で新しい価値を生み出せる様、BCPを盛り込んだ、経営指針実践を目指します。
3. 自主的な地域づくりのためにSDGs・エネルギーヴェンデ活用で会員間連携を深めるように目指します。
4. 仲間づくりを自主的拡大で、支部内の中小企業振興基本条例の実践を目指します。

《支部幹事》

	会社名	役職	氏名
支部長	紫波環境㈱	代表取締役	瀬川 峰雄
副支部長	タイヨー㈱	代表取締役	浅沼 博美
副支部長	社会保険労務士ワイズコンサルタンツ	代表社員	山本 正人
副支部長	SS建築デザイン室㈲	代表取締役	佐々木江美
幹事長	㈲魚広	代表取締役	廣田諭宇祐
幹事	㈱うちむら家具	代表取締役	内村健太朗
幹事	互光商事㈱	代表取締役	玉川 康介
幹事	杜陵テクノ㈱	代表取締役	川村 武司
幹事	信幸プロテック㈱	代表取締役	村松 守
幹事	信幸プロテック㈱	取締役会長	村松 幸雄
幹事	森川㈱東北支店	東北支店長	横田 淳一
幹事	森田製作㈲	代表取締役	森田 博英

県南支部6月例会

コロナ禍の中でこそ、われわれが考え直すべきエネルギーシフト

6月16日他支部からも多くのご参加を頂きWeb総会を開催致しました。県南支部はコロナ感染者がほとんど発生しておらず、何かと敏感になり巣ごもり状態がこの一年続きました。そのために支部活動もどうしても対面での活動が行いにくく、例会形式での例会は開催できませんでした。その代わりにZoom会議を使った、近況報告会を二カ月毎に開催しました。都合の良い時間帯に画面越しに集まり、近況の報告や情報交換を密に行う事ができました。時代の変化に合わせ、使えるツールを活用することにより、移動時間の削減が可能な事にも気づく一年でした。

そうしたなかで、東北酸素の千葉社長からは次回7月例会では報告者に立候補がありました。第15期経営指針実践塾に参加していましたが、ぜひ報告をしたいと手が挙がり、今年度総会後の最初の例会の議題も決定しました。その他、次年度の運動方針や役員の承認を頂き総会は無事に終了しました。

例会では 信幸プロテック㈱取締役会長の村松幸雄氏から「エネルギーシフトの可能性」について報告いただきました。岩手同友会での取り組みの始まりから、どのように展開、発展してきたかを、丁寧にご説明いただきました。今までの欧州視察のスナップの紹介やそこでの気づきなどをおはなしいただき、改めて認識を新たにできました。

岩手の地で今我々は何をすべきなのか、そしてこのコロナ禍でこそ、われわれが考え直すべきエネルギーシフトについて、私たちの姿勢を考え直すとても大事な時間を共有させていただきました。

本来はリアル（対面）での例会を再開し、グループ討論を行って、気づきを深められれば良いのですが、今しばらくは不便な毎日が続きます。我々の使命をよく考え、これからも県南支部を盛り上げて行きたいと思いました。

（文：県南支部　鈴木雅彦）

2021年度　県南支部　方針及び役員

《スローガン》「共に学び、共に育ち合い、地域に貢献できる企業をめざそう」

《活動方針》
1. 自律的で質の高い企業づくりへ向けて挑戦します。
   (1) 経営体験の報告とグループ討論で互いに学び合う、月一回の例会活動を中心に知り合い・学び合い・援けあい、共に繁栄をめざします。
   (2) より具体的に経営の悩みをや人育ての課題などに、親身になって応えられる、学びの場をつくります。
2. 経営の課題や悩みを気軽に出し合える場を積極的につくります。
3. 企業間の連携を広げ、地域資源をいかしエネルギーシフトで新しい仕事を雇用をつくり、地域を元気にします。
4. 他団体や行政の方々と共に、より良い地域づくりを考えます。
5. 県南支部35名を実現します。

《支部幹事》

	会社名	役職	氏名
支部長	㈱東北ウエノ	代表取締役	鈴木　雅彦
副支部長	㈱アグリサービス	代表取締役	小野寺慶志
副支部長	一関自動車工業㈲	代表取締役	鈴木　和行
副支部長	㈲かさい農産	取締役会長	葛西　信昭
副支部長	前沢自動車学校㈱	代表取締役	菅原　秀子
幹事長	㈱ネット保険ショップ	代表取締役	松倉　忠
幹事	岩手経営労務事務所	代表	鈴木　克則
幹事	㈲協栄鈑金	代表取締役	後藤　和弥
幹事	㈲共輪自動車	代表取締役	菊地　寛之
幹事	㈲菅徳自動車整備工業	常務取締役	菅原　秀樹
幹事	東北酸素㈱	代表取締役	千葉　厚
幹事	㈲藤澤塗装	代表取締役	佐藤　豊
幹事	㈱マリアージュ	代表取締役	鈴木　泰洋

県北支部６月例会

美味しいお肉を消費者に喜んでもらうのが幸せ

６月22日(火)岩手町プラザいわて会議室で県北支部総会および、県北支部６月例会が行われました。

今回の６月例会は２０２１年度県北支部総会と合わせて開催されました。総会では岩手町長の佐々木光司氏、岩手町商工会長の八戸保彦氏にご来賓としてご出席を賜りました。総会では前年度の活動報告や２０２１年度の活動方針および役員改選等について提案があり、農業食糧生産部会と協力しながら、県北広域でより活発な活動を展開していくことを確認し、閉会しました。

６月例会では、報告者に㈲キロサ肉畜生産センター代表取締役の金森史浩氏を迎えて活動についてお話しをいただきました。金森社長からは、会社が直面するあらゆる問題に対してデータをもとにした細やかな対応がされていることや、そうしたデータの分析によって経営計画が策定されていることが報告されました。

㈲キロサ肉畜生産センター　金森史浩氏

参加者からは「わが社でもキロサさんの肥料を使っているが、非常に品質が高い。その背景にある考え方をお聞きし、肉も肥料も付加価値が高い理由が分かった。」「社員には『任せる』ことで一人ひとりの成長を期待していることが分かった。当社でも任せて伸ばす教育を取り入れたい。」等の感想が寄せられました。

報告の最後に金森社長から「美味しいお肉を消費者に喜んで食べていただくことが、社員一同の幸せである。」との言葉がありました。「買い手のことを第一に考えた商売と商いを通じた地域社会への貢献」の大切さを再確認できた例会となりました。

（文：県北支部　金澤康成）

2021 年度　県北支部　方針及び役員

《スローガン》「企業を取り巻く環境の変化を捉え、活力ある企業づくりと地域づくりを実現しよう！」

《活 動 方 針》
1. 対話を中心に経営の悩みや課題に向け合い、視点を広げます。
2. 変化の予兆を読み解き、経営や支部活動につなげます。
3. 県北支部 70 名を実現します。

《支 部 幹 事》

	会社名	役職	氏名
支 部 長	㈲小川原自動車鈑金	代表取締役	小川原一成
副支部長	みなみよ～とん㈱	取締役会長	佐藤　守
幹 事 長	住工房森の音　㈲美建工業	代表取締役	桜田　文昭
幹　事	㈱五日市塗装工業	取締役会長	晴山　祐一
幹　事	㈱交通電機商事	専務取締役	金澤　康成
幹　事	㈱フードアトリエ	代表取締役	佐々木朋乃
幹　事	㈲猿子園芸	代表取締役	猿子　祐太
幹　事	㈱住宅工業	取締役　東北支社長	高橋　勝良
幹　事	東日本機電開発㈱	取締役会長	水戸谷完爾
幹　事	㈱松田製材所	代表取締役	松田　大志
幹　事	㈱松原農場		松原　宏樹
幹　事	㈱岩手くずまきワイン	専務取締役	漆真下　満
幹　事	㈱ビルド遠藤	代表取締役	遠藤　考則
幹　事	㈱馬場園芸	代表取締役	馬場　淳
幹　事	前野モータース	代表	前野　嗣郎
幹　事	㈱ハッピーヒルファーム	専務取締役	千葉　雄大
幹　事	大鹿糠農園	代表	大鹿糠正行
幹　事	㈱麹屋もとみや	専務取締役	本宮　啓

2021年度　気仙支部　方針及び役員

《スローガン》「一人ひとりの顔のみえる支部づくりをしよう」

《活 動 方 針》
1. 例会に参加していただくための環境づくり（とにかく気軽に集うにはどうすればよいか？）
   - ・会員の困り事や伝えたいことを拾い出し、整理する
   - ・まずは全員に声をかける
2. 気仙支部会員の事業内容などを知り合う（何をしている会社、どんなことが出来る会社など）
   - ・会員同士の会社紹介（任意）　・今後の展望
   - ・各社の夢　・自社の一番売り
3. 各社の利益につながる連携のしかた勉強会（事例の報告や今後の計画されている事など）
   - ・他業種、異業種との交流促進　・同業他社の意見交換
   - ・産学官金との連携　・補助金制度など情報共有

《支 部 幹 事》

	会社名	役職	氏名
支 部 長	木楽創研㈱	代表取締役	熊谷　秀明
副支部長	岩手工業㈱	代表取締役	熊谷　孝嘉
副支部長	㈱遠藤石材	代表取締役	遠藤　健司
副支部長	㈱八木澤商店	代表取締役	河野　通洋
副支部長	農事組合法人宮守川上流生産組合	副組合長	桶田　陽子
幹 事 長	㈲橋勝商店	代表取締役	橋詰　真司
幹　　事	アローリンクス㈱	代表取締役	川原　夕輝
幹　　事	石村工業㈱	代表取締役	石村　眞一
幹　　事	勘六縁	代表	菊池　陽佑
幹　　事	KEN 設計	代表	及川　賢治
幹　　事	㈱県南運輸	代表取締役	志田　宏美
幹　　事	佐々重農園	代表	佐々木重人
幹　　事	Supprt Office N	代表	鈴木　典子
幹　　事	㈱高田自動車学校	取締役会長	田村　　滿
幹　　事	タクミ印刷㈲	代表取締役	熊谷　千洋
幹　　事	㈱トータル・リユース	代表取締役	伊瀬　幸郎
幹　　事	㈱長谷川建設	代表取締役	長谷川順一
幹　　事	(一社)マルゴト陸前高田	代表	伊藤　雅人
幹　　事	㈲村上塗装	代表取締役	村上　國光
幹　　事	村上製材所		村上　英将
幹　　事	㈲村健塗装	代表取締役	村上　健也
幹　　事	㈱山十	店長	伊東亜希子
幹　　事	㈱吉田建設	代表取締役	吉田　光伸
幹　　事	ロッツ㈱	代表取締役	富山　泰庸

青年部会

6月4日(金)2021青年部総会・記念講演がオンラインで開催されました。

青年部は昨年からのコロナ禍の中、2020年度の総会は書面回覧でした。その間、毎月のマネージャーミーティング（幹事会）をWebで開催し各企業の情報交換を行ってきました。

総会の後の記念講演として、今年9月に第49回青年経営者全国交流会で岩手の分科会報告者の㈱八木澤商店の河野通洋氏を迎え他県同友会の参加も含め約50名の参加で開催しました。

どんな環境でも学びを自社に生かしていく

昨年度の振返りとして猿子部会長から、昨年は青年部にとっても活動が思うようにいかず、移動例会が中止になり、大変厳しい環境でした。しかし、そんな中だからこそ、私たち青年部は、Webをつかい細目に情報交換しながら活動しました。中でも新しく2回にわたり取組んだ「ほしいの輪」は今自社で抱えている悩みを1人では解決できない課題に対して共に考え、解決のきっかけづくりや課題の本質に迫る学びでした。と振返りました。

同世代がお互いに切磋琢磨しあい資質を磨く

さらに、今年度は「楽しむ」「認め合う」「チャレンジする」「関わりを積極的に持つ」「必ず結果を出す」この行動指針をもとに、パイセン企業訪問、

トーク、そして昨年度は実施が難しかった移動例会開催しながら、お互いに切磋琢磨し合い、次世代をつくる経営者になることを提案し全員一致で承認されました。

また、青年部の会員も設立当初からご尽力いただいた14名が卒業され、その先輩経営者に感謝するとともに、新しく入会する若手経営者と共に一緒に盛り上げ活動していきたいと決意も新たにした総会でした。

その後、記念講演の㈱八木澤商店の河野通洋氏から「繋いだ手を決して離さない！」～「1社もつぶさない！」関わり合いから懐かしい未来～というテーマで講演いただきました。

この内容は、次号にお伝えいたします。

2021年度　青年部会　方針及び役員

《目　　的》青年経営者が先輩の経験に学ぶと共に、同世代がお互いに切磋琢磨し合いながら資質を磨き、次代を創る経営者になることを目指します。

《行 動 指 針》

① 楽しむ
・会員の今、直面している課題や問題を本音で語り合い、経営の本質を学べる場を創る。

② 認め合う
・価値観や人格、人間性を知り、隣に並んだ視線を持つ

③ チャレンジする
・常に新しい事を学び怖がらずにチャレンジする。新しいチャレンジなしに自社や自身の発展、成長はない。

④ 関りを積極的に持つ
・地域を支えるのは中小企業であり、まずは、同友会の3つの目的を広めていく。
・常に討論し合える場を作り、他県との交流から地域性、考え方、情報を収集し合う
・同じ課題を持つ青年経営者と課題を共有し経営にいかす。

⑤ 必ず結果を出す
・振り返りが出来る目標設定を明確にし結果につなげていく。

《幹　　事》

	会社名	役職	氏名
部 会 長	㈲猿子園芸	代表取締役	猿子　祐太
副部会長	㈲昆石材店		昆　卓広
副部会長	岩手日化サービス㈱	代表取締役	吉田　巧
幹　事	SS建築デザイン室㈲	代表取締役	佐々木江美
幹　事	大鹿糠農園	代表	大鹿糠正行
幹　事	㈲小川原自動車鈑金		小川原　航
幹　事	川上塗装工業㈱	代表取締役	川上　秀郎
幹　事	㈱麹屋もとみや	専務取締役	本宮　啓
幹　事	㈲装美	代表取締役	阿部　優樹
幹　事	㈱東北ウエノ	経営企画室長	鈴木　達也
幹　事	杜陵テクノ㈱	代表取締役	川村　武司
幹　事	㈱ハッピーヒルファーム	専務取締役	千葉　雄大
幹　事	㈱馬場園芸	代表取締役	馬場　淳
幹　事	ふじむら農園	代表	藤村　真哉
幹　事	三上内装社	代表	三上　美樹

2021年度　女性部会　方針及び役員

《活動方針》岩手県中小企業家同友会の中で女性経営者、経営者のパートナー、幹部社員から構成される部会です。女性ならではの生活者の視点や感性を活かし、子育てや生活と仕事の両立を考えていきます。そして男女共生や自立に向けて学び合い、自らが成長し、よい会社、よい地域づくりにつながるよう、企業での実践へ向けて取り組みます。

《重点政策》運営委員会メンバーを中心に、全県女性経営者やパートナーの学びの場「ツキイチ144大学」をつくることで、成長（学び）、共有（例会）、共鳴（フリートーク）し、さらに積極的に仲間づくりの輪を広める。

《運営委員》

	会社名	役職	氏名
部 会 長	信幸プロテック㈱	専務取締役	村松　直子
副部会長	川上塗装工業㈱	専務取締役	川上　冴華
副部会長	㈱アザレ岩手本舗	代表取締役	佐々木　桂
運営委員	㈲いわてにっかコミュニティ企画	代表取締役	吉田ひさ子
運営委員	前沢自動車学校㈱	代表取締役	菅原　秀子
運営委員	ミルクグラスクローゼット	代表	山内まどか
運営委員	㈲盛岡マツダ商会	代表取締役	藤澤智恵子

シリーズ コラム㊳

ドイツからの風

池田憲昭氏

プロフィール
1972年長崎県生まれ
岩手大学人文社会科学部（ドイツ文化専攻）卒業、フライブルク大学森林環境学ディプローム課程（修士相当）卒業
フライブルク地域を拠点に、ドイツ環境視察セミナーのオーガナイザー、異文化マネージメントのトレーナー、企業サポーター、日独プロジェクトのコーディネーター、専門通訳、ジャーナリストとして活躍されています。2011年9月Arch Joint Vision社を設立 現代表。

世界の終わり、パラダイスのはじまり

僕ら家族は、人口2万人の街の郊外、世界の終わりに近いところに住んでいる。

歩いて10分、自転車で3分走れば、世界の終わりにたどり着ける。そこからパラダイスがはじまる。

一般的にいわれる人間の想像のなかにあるパラダイスではない。このパラダイスには実態がある。観て、聴いて、触って、匂いを嗅いで、食べることができる。僕はそれを「生きた里山」と呼んでいる。定期的な草刈りや動物の放牧で、多様に管理されたパステルグリーンの牧草地。そのなかにひっそりと、しかし確かな存在感を持って点在する農家の家々。シュヴァルツヴァルトハウスという、屋根が大きく、人間と家畜が一緒に暮らす、独特のデザインだ。牧草地を縁取り、柔らかく覆いかぶさるように森がある。トウヒやモミの木などの濃い緑の針葉樹とブナやカエデやオークなどの広葉樹が、モザイク状に混ざっている。人間が自然との相互作用のなかで創ってきた、そして現在でもその創作活動が続いている生きたパラダイス。

世界の終わり、パラダイスであるけれど、人が生活し、毎日、僕らが住む世界との交流もあるから、快適にアクセスできる道がある。交通量の少ない村道や農道は、開放的に散歩やサイクリングができる。そこから延長して森に入っていく森林基幹道もある。表面は細かい砂利敷きの無舗装だが、丁寧で近自然的な排水措置が施してあり、轍、水溜り、凸凹もほとんどない。サンダルでも、乳母車や車椅子を押しても快適に歩くことができる。ジョギングやマウンテンバイクも気軽に安全にできる。最近は、電動補助がついたE-Bikeなるものがかなり普及していて、これまで、勾配のある農道や森の道には自転車で入って来なかった元気な高齢者たちが、現代のテクノロジーの助けを借りて、森林浴スポーツを楽しんでいる。僕はハイテク技術の誘惑にはまだ屈することなく、筋肉を使って汗を掻いている。走行許可を持っている木材運搬車、トラクター、ハンターや森林官の車に、ごくたまに出逢うが、メインの利用者は、隣接する世界に住んでいる僕らのような一般庶民。僕らをパラダイスに導いてくれる大切な保養インフラだ。空想上のパラダイスと違い、毎日、好きな時間に行って、戻ってくることができる。

雨上がりの土や草木の匂い、草刈り後に散布される田舎の香水「堆肥」の匂いのなかで、耳に入ってくるは、虫の声、鳥の声、散歩する家族やグループの喋り声、牛やヤギや羊の泣き声、トラクターのエンジンの低い回転音、といった心地よいBGM。しかしそのなかで、時々、現代文明社会の異音にも遭遇する。林縁の木陰のベンチがあるちょっとした広場で、若者たちのグループが、スマホに繋いだパワーのあるアウトドアスピーカーからアップテンポの音楽を大音量で鳴らし、食品産業が次々に生み出す「デザイン」されたカクテル飲料を飲みながら、ワイワイ、ガヤガヤ、パーティをやっている。いや、若者だけではない。5月半ばの「父の日」は、親父たちが徒党を組んで、車輪のついた小さな牽引荷台に瓶ビールのケースを2ダースくらい載せて、パラダイスの農道や森道をガブ飲みしながら騒ぎ歩くという、長年続く悪習慣もある。父の日なのに、家で居場所がないのだろうか？

普通の世界の住民も、パラダイスの住民もみんな、競争をベースに金銭的利益の最大化を求める資本主義市場のシステムのなかで生きていて、それぞれ悩みや迷い、エゴや欲ある。一方で、協力や思いやり、ユーモアや愛情といったヒューマニティも併存していて、希望や願望や喜びも持って生きている。だから、実態のあるパラダイスが存続でき、普通の世界と繋がっていられるのだと思う。

新刊「多様性―人と森のサスティナブルな関係」では、そんな身近なパラダイスとその背景にあるものも描いています。
https://www.amazon.co.jp/gp/product/B09IF75KD3

【シリーズ】エネルギーシフト（ヴェンデ）岩手の挑戦㊱

欧州から岩手へ。岩手から地球環境へ①

次世代に継承してほしいから、こだわってつくる

　岩手同友会のエネルギーシフト（ヴェンデ）研究会の立ち上げから7年。各企業での様々な実践がスタートし、その輪は全国に広がっています。2021年、今年の5月と6月の2回にわたりオンラインで開催された実戦報告会では鹿児島、宮崎、愛知、秋田、岩手から10社が登場、のべ7時間の報告会は、これまでの想定が根底から覆されるほど、それぞれの企業での新事業展開、地域実践が披露され、驚きの連続でした。そのほとんどがエネルギーを「省く」、「小さくする」、地域にある資源を「生かす」、省・小・生（ショウ）エネルギーの取り組みから誕生したものばかりです。

中同協ドイツ・オーストリア視察

これはどの企業でも今日から取り組めるエネルギーシフトとして私たちが提起してきたものですが、省・小・生・創・商（5つのショウ）エネルギーの取り組む順番の確かさを確信できる内容でした。

　愛知のハーレーのカスタムパーツ卸業を営まれる鈴木学氏（スズキ&アソシエイツ代表取締役）は、欧州の視察から新築の店舗、倉庫、事務所を、木造のZEB（ネットゼロエネルギービル）基準で創りあげました。その根底には、「人に優しい、人が集まる、働きやすい会社づくりへ」という「人を生かす経営」の理念があります。

　オンラインの画面を通して、田村満氏（㈱高田自動車学校）は、目頭を押さえながら「こんなに嬉しいことはないね」と、鈴木氏の話を聴いていました。実は鈴木氏のモデルは岩手、平泉ドライビングスクールの校舎にあります。本来地域のエネルギーステーションまでめざした試みでしたが、建物の性能に絞り、木造にこだわってパッシブ基準で建てた理由がありました。田村満氏は常々、「なぜこんなにも断熱性能を高めた、エネルギーシフトを意識した校舎にしたか。全国の建築を学ぶ学生に、ここでの経験を未来に継承してほしいから」と話していました。漸く実現した思い。その原点は東日本大震災にあります。

復興の中で語り始めたエネルギー問題

　2013年10月に行われた中同協のドイツ・オーストリア視察は、「エネルギーシフト」というキーワードを欧州から日本、そして岩手に持ち帰った大きな契機でした。

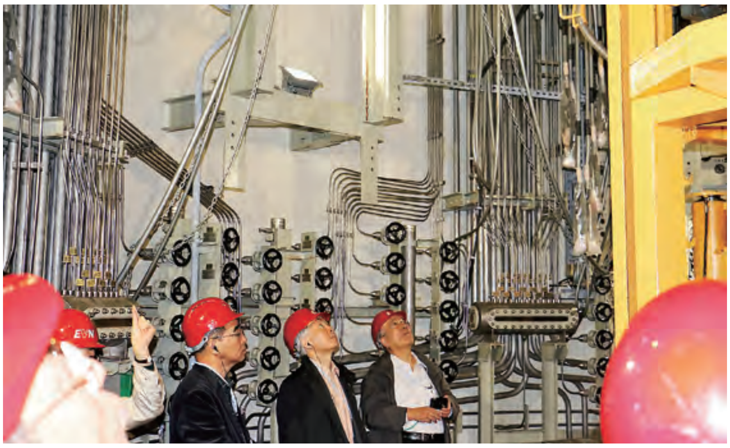
　東日本大震災の発災から2年。当時の陸前高田は、積み上がった瓦礫の姿こそなくなったものの、街の営みが失われ、唯々広大な土地が広がる光景に、その後の未来の街の姿を想像できない状況にありました。それでも東大のとある研究室に伺い、陸前高田沖での洋上風力発電の構想を描くなど、閉塞感を打開しようと必死で藻掻いていました。

　そうした閉塞感に苛まれた私たちの姿を見越して、当時の中同協会長の鋤柄修氏の発案で被災同友会に声がかかり、全国の皆様から寄せていただいた支援金をもとに欧州視察への参加の機会を頂戴したのでした。その後、中同協

平泉ドライビングスクール新校舎

東日本大震災復興推進本部研究グループ（REES）で復興と持続可能な社会をめざして重ねられた議論は、9年を数えました（震災から10年機に活動終了、現在はREES㈼へ継承）。震災から10年という月日を振り返ると、エネルギーシフト運動の原点がここにあったのだと、あらためて気づかされます。

2013年当時、ドイツ・オーストリアへの出発前の6月に大槻眞一氏（阪南大学元学長）を迎えて行われた事前学習会では、「EU小企業憲章とエネルギー問題」について議論がなされました。現在と違い、エネルギーと地域課題、そして中小企業の持続的な発展を語る報道記事は、殆ど見かけることはありませんでした。それだけ大震災からの復興への意識に日本全体が傾いていました。今振り返ると、そんな中でも地球環境の未来にまで意識を置き問題提起をしていたことに、同友会の先進性をあらためて感じることができます。



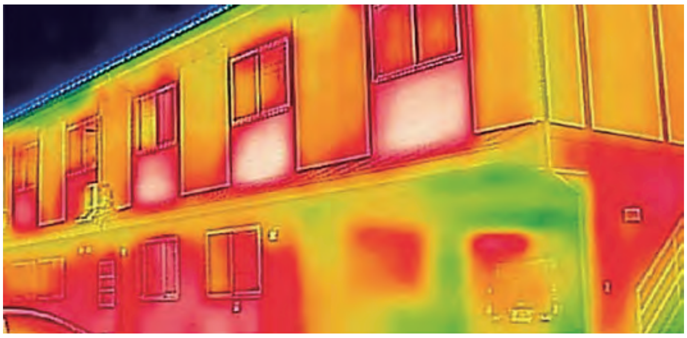
旧ツヴェンテンドルフ発電所内部

これは次世代の地球の話だ

ドイツ・オーストリア視察は衝撃の連続でした。瓦礫が残る街での例会の翌日、13時間のフライトを経て突然目の前に現れた中世から続く美しい石積みの街並み。そして行く先々で目のあたりにした真実の数々に、「被災地の復興のため」という狭められた意識から風船が膨らむかのように、私たちの生き方そのものに向き合う姿勢に変化していきました。大震災の現場に立ち続けることは、それほどまでに厳しいことであったのだと思います。

オーストリアのツヴェンテンドルフ原子力発電所は住民投票の結果、反対が50・47％という僅差で上回り、プロジェクトそのものが中止となりました。結局稼働しなかったほぼできあがった状態の原発の内部に入って初めて、核燃料で発電するという巨大装置への違和感を感じました。福島で生まれ、原発の安全を決して疑ったことのない心に、大きな衝撃を受けます。これはエネルギー問題ではなく人類の問題、そして次世代につなぐ地球の未来の話なのだと気づきます。

オーストリアのギュッシング市は、バイオマスエネルギーのみで地域の100％自立を実現したとされ、当時世界中から視察が絶え間なく訪れていました。日本からの経営者が訪れると聞いてかけつけた市長は「経営者の皆さんだから」、と前置きし、実は市の財政が回らず破綻寸前であることを吐露しました。そんな事実は、ネットのどこを調べてもありませんでした。まさに百聞は一見にしかず。ここから訪問団のエネルギー問題への意識が大きく変化していきました。



サーマルカメラでとらえた熱の見える化（村松幸雄氏提供）

「世界で一番寒い家」の衝撃

更に追い打ちをかけるように最後の訪問地、ドイツ・フライブルク市のヴォーヴァン住宅街で、東北で生きる私たちにとって耳を疑う言葉を聞きます。「岩手を含む北東北は、世界中で一番寒い家に住んでいます。ここは岩手と同じく外気は冬場マイナス10度になりますが、部屋の中は無暖房で16度以下になりません。これは人権の問題です」。この言葉への衝撃が、私たちのエネルギーシフト運動への挑戦の源であると言っても過言ではありません。

「そんなはずはないだろう」。しかし帰国してすぐ調べると、岩手の脳血管疾患で亡くなる方が、男女ともに日本ワーストワンである（2012年）という事実が、わかってきました。のちに室温の大きな差がヒートショックを生み、それが脳血管疾患の原因の一つであることがわかるのですが、岩手同友会でのエネルギーシフト（ヴェンデ）への挑戦は、こうして、「世界で一番寒い家」への悔しさからスタートしたのです。

わが社の新商品

ネーミングにこだわった体にやさしいお惣菜を！

滝沢市の㈱フードアトリエは完全予約制の宅配弁当店から店舗を一部改装し、お惣菜や菓子の販売をスタート。現在、家庭で料理する機会が増えたお客様から「惣菜はどこも同じ」「作り手が見えない」「甘さ控えた菓子が欲しい」等のお声を受け開発。惣菜は食べたい時に食べられる様、真空パックにしました。砂糖不使用のプリン「人生は甘くないけどこのプリンはほんのり甘い」は甘糀を、「揚げぬなら店で揚げよう唐揚げは」は塩麹を使用。ネーミングも楽しく提供しています。現在、同会員㈱松ぼっくりに依頼し、オリジナルジェラートも試験販売中。ジェラート350円、からあげ300g600円（税込）等。今後はギフト展開する予定です。詳しくは当店まで。

新刊紹介！

「中小輝業への道」
～就業規則と「働く環境づくり」で成長する～
中小企業家同友会全国協議会監修
働く環境づくりプロジェクトチーム著
A5 版 約 280 頁 定価 2,750 円（本体価格 2,500 円＋税）
☆お求めは岩手同友会事務局まで！

T UENO
包装設計のプロフェッショナル「東北ウエノ」は
「適材適包」でお客様をサポート致します。
「PACKAG　ENGINEERING」
詳しくはホームページで https://www.touhokuueno.co.jp/
株式会社東北ウエノ
〒021-0893 本社：一関市地主町3-35 TEL0191-21-4531
テクニカルセンター：一関市地主町7-15 TEL0191-32-5020
輸送包装便覧.com https://www.transport-package.com/

物を大切にし環境にやさしくありたい　使わない人から使いたい人へ
総合 リユースショップ
Doki-Doki　2nd STREET
(株)トータル・リユース
代表取締役社長 伊瀬 幸郎
ise yukiro
本社 〒026-0041 岩手県釜石市上中島町2-2-33
TEL：0193-21-2126　FAX：0193-21-2127
携帯 090-8780-3296
E-mail：trise@arion.ocn.ne.jp

■本紙掲載の例会や諸事業には、所属支部に関係なくどこにでも参加できます。ご連絡下さい。■同友会ホームページをご活用下さい。www.iwate.doyu.jp ■例会や役員会などのカレンダーと事業案内を随時更新しています。■本紙掲載事業への出欠返信は、同封のファックス返信用紙または e.duyu をご利用下さい。

DOYU IWATE
同友いわて
2021 Vol.151
2021年8月1日発行
発行／岩手県中小企業家同友会
広報委員会

〒020-0878 岩手県盛岡市肴町4-5 カガヤ肴町ビル3F
TEL019-626-4477 FAX019-626-1644
Mail：info@iwate.doyu.jp